

ユーラシアカワウソの人工哺育例

○伊藤咲良¹⁾，栗原幹尚¹⁾，太田真琴¹⁾，山田晃代¹⁾，清野悟¹⁾

(¹⁾ (公財) 横浜市緑の協会・よこはま動物園ズーラシア)

2013年6月から2016年8月までの間、ユーラシアカワウソ (*Lutra lutra*) 雌1個体の出産が6例あった。しかし、いずれも十分な育児が認められず、2例目まで仔は食害され、5例目までは産後24時間以内に仔を取り上げ人工哺育としたが、2～6日齢に生じた高度な下痢により死亡した。6例目の出産に際しては、人工哺育用ミルクおよび哺乳方法に改善を加え、現在まで順調に成育している。6例目の人工哺育では、産後21時間目に取り上げた衰弱仔を、フリースを敷いたダンボール箱に入れ、保育室(室温約28℃)に設置した保育器に収容した。保育器内の湿度は80%とし、温度は開始時の32℃から30日齢の29℃まで徐々に低下させた。31日齢以降は、保育室内に設置したペットキャリー(60×90×68cm)に入れ、81日齢以降はカワウソ舎(室温約17℃)の寝室内で飼育した。人工哺育用ミルクは、イヌ用粉ミルク(エスピラック®)を使用し乳酸菌製剤(動物用ビオフェルミン®)を添加した。調乳濃度は粉ミルクと湯の重量比7倍から開始し、14日齢から徐々に濃度を上げ、19日齢以降離乳までは6倍にした。哺乳回数は、開始時が3時間毎(8回)で、1回の哺乳量は体重の5～7%を目安にした。14日齢からは4時間毎(6回)にし、60日齢以降は徐々に哺乳回数を減らすと共にアジの給与を開始し、85日齢に断乳した。排泄は哺乳前後に肛門部を刺激したが、便状は黄土色の固形粒状で常に良好であった。36日齢以降になると仔の活動がさかなくなり、肛門刺激によっても排泄の認められないことが多くなった。本期間の哺乳前後には室内を自由運動させていたが、40日齢に自力排泄がみられた。全哺育期間において体重はほぼ順調に増加し開始時の57.4gから85日齢の2,025gに至る体重増加は、ズーラシアにおける同時期の自然成育記録と同様であった。このことから、今回の人工哺育方法がユーラシアカワウソに適したものであると考えた。